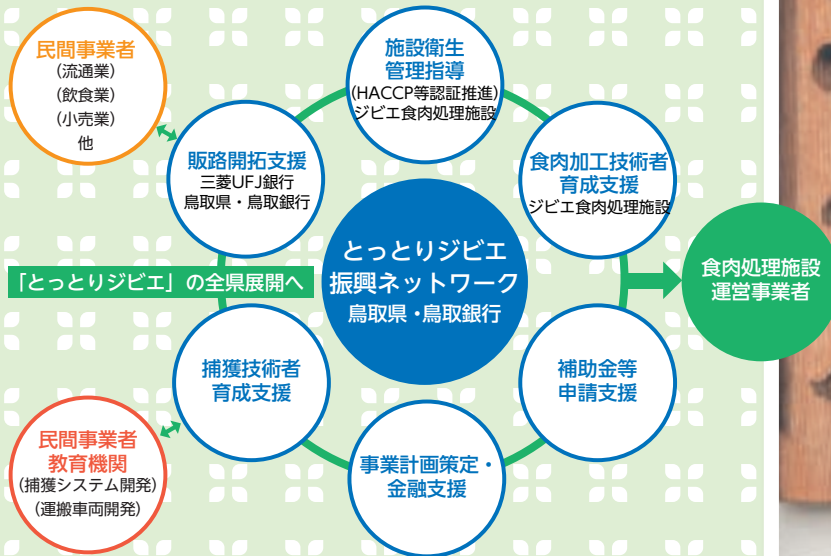


「とっとりジビエ」のビジネス化 支援

農作物の鳥獣被害をもたらすシカやイノシシは、全国で約200億円※¹、鳥取県内でも約9,000万円(平成28年度)※²の損害を与えていると言われています。これらの野生動物を、駆除するだけでなく、ジビエ肉として加工・販売し、地域の新たな産業へと成長させることが、地域活性化に繋がるのではないかと——そのような思いで鳥取銀行は、三菱UFJ銀行と連携して、ワーキンググループを発足し、ビジネス化支援に取り組みました。

(出所) ※¹ 農林水産省「鳥獣被害防止対策とジビエ利用活用推進」
※² 鳥取県WEBサイト「鳥取県内の有害鳥獣による農作物等被害額の推移」

● 鳥取ジビエワーキンググループでの取組み全体像



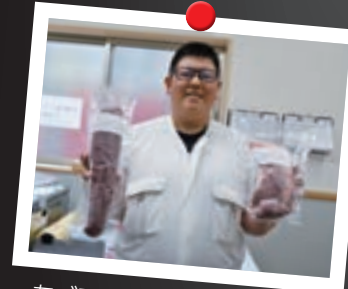
わかさ29工房 施設管理責任者
河戸 建樹 さん

「鳥取県のジビエ産業は、北海道や長野県に比べ歴史が浅いです。他県も処理場の建設などを行い力を入れていくなかで、安心安全で美味しい「とっとりジビエ」の知名度を全国的に上げていき、競争に勝っていく必要があります。ジビエを特産品として全国に発信していくことは、ひとつの処理場ではとてもできません。ワーキンググループに参加したことで異業種の人脈ができ、様々な発信の手段が見えてきました。今後も、県や地域金融機関など幅広いネットワークを持つ機関の協力を期待しています。」

ふるさと振興本部地方創生グループ担当部長
松本 公彦

Menu

わかさ29(にく)工房(鳥取県若桜町)の河戸さんのシカ肉は、都内のレストラン等でジビエ料理として提供されるなど、販路が拡大しています。



ちづDeer's(鳥取県智頭町)智頭町にも初のシカ肉処理場施設がオープン。とっとりジビエの生産拠点も増加しています。「給食などで食べてもらい、地元の人がジビエのおいしさを知ってもらえるようにしたい」と代表の赤堀さん。



右：ちづDeer's 代表 赤堀 広之 さん
左：智頭支店 支店長 谷口 明洋



金融機関の特徴的な取組事例(平成29年度)



「ジビエの品質管理向上及び販路開拓支援によるビジネス化の推進」は、「地域おこし協力隊への伴走支援」とともに、平成29年度地方創生に資する金融機関等の「特徴的な取組事例※」として、内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局より表彰されました。

※ 金融機関の地方創生に資する取組のうち、地方公共団体との連携や先駆性が認められた事例